

第3回 ASEAN Academic Conference for Disaster Health Management で基調講演を行いました (2025/11/18-20)

テーマ：BUILDING THE DISASTER HEALTH MANAGEMENT FOR A RESILIENT ASEAN
(レジリエントな ASEAN をめざした災害健康管理)
会場：Jubilee Persttige Hotel、バンコク、タイ

2025 年 11 月 18 日(火)～20 日(木)にわたって開催された、第 3 回 ASEAN Academic Conference for Disaster Health Management (第3回 ASEAN 災害健康管理会議 AACDHM)において、災害医学研究部門の江川新一教授(災害医療国際協力学分野)が基調講演を行いました。AACDHM は 2016 年からタイと日本の二国間協定にもとづいて、ASEAN 地域内での災害医療対応の標準化を目指す ARCH プロジェクトの一環として、学術面での向上を図る ASEAN Academic Network の定期学術集会として 2 年に 1 回開催されているものです。

開始から 10 年を迎えた ARCH プロジェクトは、ASEAN 地域内で災害が起きたときに「One ASEAN One Response」という参加国首脳が合意したスローガンのもとに、地域内の国から派遣される国際医療派遣チーム(international EMT)が標準化された行動規範、共通の用語、教育カリキュラムなどを遵守することで、効果的な国際医療救援ができるとともに、災害が多発する地域である ASEAN の各国内においても災害医療の能力を高めることを目的としています。地震や津波、台風、洪水などの自然ハザードに加えて、工業地帯を多く有する地域の事故やサイバーセキュリティも含めた技術的ハザード、紛争やマスメディアのような社会的ハザード、島嶼国における海面上昇などの環境ハザードなどに対して人々の健康を守るために、ASEAN が一体となってオールハザードアプローチをとり、WHO や UNDRR と連携しながらプロジェクトを進めています。AACDHM はその学術的な面を強化することによって ASEAN 加盟国の災害医療をデータやエビデンスに基づく科学的な対応に進化させることを目的としています。

江川教授は、「Collaborating for Resilience: Good Practices and Lessons Learned on Education Initiatives in Disaster Health Management (レジリエンスのための協働：災害健康管理における教育イニシアチブの成功と改善点)」において基調講演を行いました。教育においては用語がきわめて重要であり、「自然災害」や「教訓」という用語を用いないようにすることで、ハザードと災害(災害リスク)の違いや、何を伝えたいのか、何を学ばなければいけないのかをはっきりさせることができます。また、建物が壊れないような防災体制が進化すれば、わが国が経験したように、外傷が少なく済むかわりに、慢性疾患、感染症、メンタルヘルスの問題を抱える被災者の健康を守り、間接的な災害死亡(災害関連死)を減らすことの重要性が増していきます。災害医療は救急医療だけではなく、被災地の健康を守り、そのための備えを進めることの重要性が共有されました。

ARCH プロジェクトはさらに 3 年間延長され、社会実装とエビデンスの向上、教育の普及に努めていきます。フィリピンで開発された SPEED システム(被災地の健康被害をリアルタイムで共有するためのシステム)は、日本の医療支援チームによって J-SPEED として国内の災害で使われているだけではなく、今や WHO 標準の Minimum Data Set (MDS)として、世界中の災害医療支援チーム(EMT)が災害医療対応で、現状を把握し、データに基づく意思決定をするために用いるシステムになっています。日本がこのようなプロジェクトに貢献することは、南海トラフ地震津波や首都圏直下型地震、千島海溝地震津波、あるいはパンデミックや予想もしない新たな災害において、国内の災害医療体制だけ
(次頁へつづく)

では十分な対応ができない可能性が強く、国際的な医療支援を標準化された装備や能力に基づいて受入れ、わが国の被災者の健康をともに守る「国際受援能力」そのものにつながります。英語を共通語として、国際医療支援を受ける受援能力も向上させる必要があります。

AACDHMは、ASEANの正式な支援のもとに続いていき、学術ネットワークの事務局はひきつづきインドネシアのガジャマダ大学に置かれます。公式な医学雑誌として発刊されたASEAN Journal of Disaster Health Management (AJDHM) の第2号も11月19日に発刊されました。江川教授はその編集委員として、雑誌の国際的評価を高める今後のあり方、ASEANにおける若手医療研究者の育成、ARCHプロジェクトのような社会全体のレジリエンスを向上させるためのプロジェクトの論文化などに貢献しています。



タイ保健省、在タイ日本大使館、ASEAN事務局、WADEM、日本災害医学会、JICA、タイ国立救急医療研究所、AIDHMなどの代表が一同に会した開会式



ASEAN地域で直近1週間の災害による被害を示すAIDHM事務局長

文責：江川新一（災害医療国際協力学分野）